特集 図書館大好き!!

今月は「読書の秋」ということで、市立図書館に注目しました。市立図書館には、子供たちの興味を引くさまざまな本がいっぱい。また、ボランティアの皆さんの協力により、楽しいイベントも開催しています。ここでは、子供たちの成長に合わせた図書館事業や、それを支えるボランティアの皆さんの思いを紹介します。

図書館は子供たちの笑顔と共に

恐竜の図鑑を広げ、何やら楽しそうな男の子たち。占いの本でコソコソとうれしそうな表情を浮かべる女の子たち。かわいい絵本を赤ちゃんに読むお母さん。「あれも読んで。これも」と子どもにリクエストされるお父さん。市立図書館では、こういった温かい気持ちになるシーンをよく見かけるのではないでしょうか。本を読みながら幸せな時間を過ごせる場所、それが図書館なのです。

親子が心を通わせるとき

図書館では「お腹の中から始まる読書体験」をコンセプトに、胎児期から学童期まで子供たちの成長を応援しています。妊娠したお母さんにはマタニティ読書手帳を渡し、お腹の赤ちゃんへの読み聞かせを薦めています。そして、保健センターの4カ月健診で実施しているブックスタートでは、2冊の絵本を親子に手渡します。鮮やかな絵本をじっと見つめ、時にははじける笑顔を見せる赤ちゃん。「ぶーぶー、びりびり、ぷっぷー」初めて聞く音に興味津々の表情を浮かべます。そんなわが子の様子に、お母さんも思わず顔がほころびます。

私たちの身の回りにはテレビやDVD、スマートフォンなど、子供たちの視覚を刺激するものがたくさんあります。絵本はそれらとは違って動いたり、音を出したりすることはありません。しかし、お母さんやお父さんが優しい声で何度も繰り返し読んでくれた絵本は、子供たちの心を満たしてくれるはずです。

本はともだち

子供たちが小学1年生になると「セカンドブック」として、20冊の中から選んだ1冊を図書館がプレゼントしています。贈呈式で本を受け取った子供たちは晴れやかで、今から開く本の世界にわくわくしています。また、図書館から遠方にある市内の11小学校には、月1回移動図書館車が巡回しています。「恐い本は他にないですか」「歴史の本これで5冊目だよ」。子供たちは、本を読む喜びを抑えきれない様子で、たくさんの本を抱えてやってきます。

子育てのプロにインタビュー

図書館は子どもの成長にとって最適な場所

島田ユミ子さん(NPO法人子育てネット行田代表理事)

4カ月健診で乳児に絵本をプレゼントする事業が「ブックスタート」です。会場となっている保健センターでは、かわいいミニ絵本に興味を示す乳児と、その姿を母親が見てうれしそうな表情を浮かべているのをよく目にします。

その他にも図書館では、楽しいダンス、おもちゃ作り、ミニ講話など子どもの心の成長に向けて絵本を使った参加型学習の事業を展開しています。多くの絵本や人との出会いが、子供たちの感受性を豊かにします。未来を切り開く子供たちにとって、図書館は大切な存在なのではないでしょうか。

親子の絵本講座

絵本を通じて親子のコミュニケーションを深めたり、子育て中の親同士で交流を図ったりすることができます。

移動図書館

絵本や児童書を積んでいる移動図書館車が、市内11小学校を巡回しています。児童らは自分のお気に入りの本を楽しそうに探しています。

インタビュー 移動図書館を利用して

栗原萌斗(めいと)くん
(埼玉小学校6年生)

移動図書館が来るのが楽しみです

学校の図書室には無い本がそろっていて、毎回移動図書館が来るのを楽しみにしています。

今日は、小説を借りました。

最新作が多いのがいい

早乙女遥香(ののか)さん
(泉小学校5年生)

歴史漫画やディズニーの本をよく借ります。周りにも利用している子がたくさんいます。今後は学校の授業で生かせる本も入れて欲しいです。